

認定	職業実践専門課程		課程	昼間		開講年度	2026年度
課目名	関係法規・制度		法定課目名	必修・関係法規・制度		学科	理容科
履修年次	1学年	単位数	1単位	担当教員	中島二三男		
到達目標	理容師・美容師の業務に関連する衛生法規・制度及び消費者保護法規・制度について、その必要性を理解するとともに、正しい知識を修得する。あわせて、公衆衛生を担う理容師の社会的責務、職業倫理について自覚する。また理容・美容の業務に関する規定を正しく理解し、衛生法規が理容業を行う場合の指針としての意義を認識する。						
課目概要	理容師法を中心に法律、政治、行政の基礎的事項から、衛生行政の仕組み、国と地方の行政の関係、衛生行政の目標と目的などを学習し、理容所の衛生管理の規定を理解することを通じ、国家資格である理容師・美容師という職業の社会的責任を学ぶ。						
成績評価	1. 学期末試験（年3回各学期毎）の成績を主に、平素の学習態度及び出席状況を考慮して行う。2. 学期末試験の成績は100点法で評価する。3. 各教科目の担当者は、当該年度で習得すべき学習内容の到達目標を予め申し合わせ、評価は当該教科目毎、学年別、学科別に行う。						
授業計画	形式の別	大項目		授業内容			
第1回	講義	法制度の概要		社会生活における法の役割、法の形式			
第2回	講義	法制度の概要		衛生法規の概要			
第3回	講義	法制度の概要		理容師法・美容師法と附属法令			
第4-5回	講義	衛生行政の概要		衛生行政の意義と歴史			
第6回	講義	衛生行政の概要		衛生行政の分類と生活衛生行政の内容			
第7-9回	講義	衛生行政の概要		衛生行政を担う行政機関			
第10回	試験						
第11回	講義	理容師法・美容師法		目的			
第12回	講義	理容師法・美容師法		用語の定義			
第13-17回	講義	理容師法・美容師法		人（理容師・美容師）に関する規定			
第18-20回	講義	理容師法・美容師法		施設（理容師・美容師）に関する規定			
第21回	講義	理容師法・美容師法		立入検査と環境衛生監視員			
第22回	試験						
第23回	講義	理容師法・美容師法		違反者等に対する行政処分			
第24回	講義	理容師法・美容師法		罰則			
第25回	講義	関連法規		衛生に関連する法律			
第26回	講義	関連法規		業の進行に関連する法律			
第27回	講義	関係法規		雇用に関する法律			
第28回	講義	関連法規		消費者保護に関連する法律			
第29回	試験						
第30回	試験						
第31回	試験						
第32回	試験						
テキスト	(公) 日本理容美容教育センター『関係法規・制度』2025, 2026年度発行版 (公) 日本理容美容教育センター『理容師法・美容師法・法令集』2025, 2026年度発行版						
注意事項	特記事項無						

認定	職業実践専門課程		課程	昼間		開講年度	2026年度
課目名	衛生管理		法定課目名	必修・衛生管理		学科	理容科
履修年次	1学年・2学年		単位数	3単位	担当教員	清水葉子	
到達目標		公衆衛生の意義と本質及び理容師・美容師が公衆衛生の維持と増進について重大な責務を担うことを自覚する。特に生活衛生の意義と目的について、理容師の業務内容と感染症予防、環境衛生の保持との具体的な関連付けが出来るようになる。理容器具などの消毒法は業務の衛生性を担保する上で、最も重要な技術であることを理解し、その実施方法を修得する。					
課目概要		公衆衛生全般、特に、感染症、環境衛生等の知識や、日常の業務に不可欠な消毒の意義、目的、および実際の消毒方法について学ぶ。					
成績評価		1. 学期末試験(年3回各学期毎)の成績を主に、平素の学習態度及び出席状況を考慮して行う。2. 学期末試験の成績は100点法で評価する。3. 各教科目の担当者は、当該年度で習得すべき学習内容の到達目標を予め申し合わせ、評価は当該教科目毎、学年別、学科別に行う。					
授業計画		形式の別	大項目		授業内容		
第1～4回		講義	公衆衛生の概要		公衆衛生の意義と課題、公衆衛生発展の歴史 理容師・美容師と公衆衛生、保健所と理容業・美容業		
第5～14回		講義	保健		保健		
第15～18回		講義	環境衛生		環境衛生の概要、空気環境、衣服・住居の衛生		
第19回		試験					
第20～29回		講義	環境衛生		上・下水道と廃棄物、衛生害虫とネズミ、環境保全		
第30～41回		講義	感染症の総論		人と感染症、病原微生物、感染症予防		
第42～45回		講義	感染症の各論		理容業・美容業と感染症、主な感染症		
第46回		試験					
第47～50回		講義	感染症の各論		主な感染症、具体的な対策の例		
第51～56回		講義	消毒法総論		消毒とは、消毒の意義、理容・美容の業務と消毒との関係 消毒法と適用上の注意		
第57～60回		講義	消毒法各論		理学的消毒法(殺菌法)		
第61回		試験					
第62～64回		講義	消毒法各論		化学的消毒法(殺菌法)、すぐれた消毒法とその実施上の注意		
第65～73回		講義	消毒法実習		各種消毒薬、理容所・美容所の消毒の実際		
第74回		試験					
第75～80回		講義	消毒法実習		理容所・美容所の消毒の実際、理容所・美容所の清潔法の実際		
第81～87回		講義	理容所及び美容所における衛生管理要領		第1 目的～第4 衛生的取扱い等		
第88回		試験					
第89～94回		講義	理容所及び美容所における衛生管理要領		第5 消毒～第6 自主的管理体制		
第95回		講義	理・美容所の自主管理点検表		理・美容所の自主管理点検表		
第96回		試験					
テキスト	(公)日本理容美容教育センター『衛生管理』2025、2026年度発行版						
注意事項	特記事項無						

認定	職業実践専門課程		課程	昼間		開講年度	2026年度
課目名	保健		法定課目名	必修・保健		学科	理容科
履修年次	1学年・2学年		単位数	3単位	担当教員	清水葉子 他3名	
到達目標	理容技術の基礎となる人体について、特に皮膚及び毛髪などの皮膚付属器官の構造と機能に関する科学的、系統的な知識を修得する。理容業務を安全かつ効果的に行うために、皮膚、毛髪などに関する正確な科学的知識が不可欠であることを認識する。						
課目概要	人体の構造・機能について学び、皮膚・毛髪などを生物科学的に理解します。理容・美容の施術をするために不可欠な知識を学ぶ。						
成績評価	1. 学期末試験(年3回各学期毎)の成績を主に、平素の学習態度及び出席状況を考慮して行う。2. 学期末試験の成績は100点法で評価する。3. 各教科目の担当者は、当該年度で習得すべき学習内容の到達目標を予め申し合わせ、評価は当該教科目毎、学年別、学科別に行う。						
授業計画	形式の別	大項目		授業内容			
第1-3回	講義	頭部、顔部、頸部の体表解剖学		人体各部の名称、頭頸部の体表解剖学			
第4-6回	講義	骨角器系		骨の種類と構造、骨の連結、骨格系とそのはたらき			
第7-8回	講義	筋系		筋の種類と特徴、主な骨格筋とそのはたらき、表情筋と表情運動			
第9-10回	講義	神経系		神経系の成り立ち、中枢神経とそのはたらき 末梢神経とそのはたらき			
第11-12回	講義	感覚器系		視覚、聴覚、平衡感覚、味覚、嗅覚、皮膚感覚			
第13-14回	講義	血液と免疫系		血液のあらまし、免疫のあらまし、アレルギー			
第15-16回	講義	循環器系		心臓のあらまし、血液循環の仕組み 血液の循環経路、リンパ管系の仕組みとはたらき			
第17-18回	講義	呼吸器系		呼吸器系のあらまし、気道、肺の仕組みとガス交換、呼吸運動			
第19回	試験						
第20-23回	講義	消化器系		消化器系のあらまし、消化管の仕組み 消化管のはたらき、消化管と物質代謝			
第24-27回	講義	皮膚の構造		皮膚の表面、皮膚の断面、表皮、表皮と真皮の境、真皮 皮下組織と皮下脂肪、皮膚の部位差			
第28-31回	講義	皮膚付属器官の構造		毛、脂腺(皮脂腺)、汗腺、爪			
第32-33回	講義	皮膚の循環器系と神経系		皮膚の血管、皮膚のリンパ管、皮膚の神経			
第34-38回	講義	皮膚と皮膚付属器官の生理機能		対外保護作用、体温調節作用、知覚作用と皮膚反射 分泌排泄作用、呼吸作用、吸収作用、貯蔵作用 皮膚の免疫、再生作用、毛のはたらき、爪のはたらき			
第39-45回	講義	皮膚と皮膚付属器官の保健		皮膚と全身状態、皮膚と精神、皮膚と栄養、皮膚と嗜好品 皮膚と体内病変、皮膚の水分と脂の状態			
第46回	試験						
第47-50回	講義	皮膚と皮膚付属器官の保健		皮膚・付属器官とホルモン、皮膚の保護と手入れ 毛の保護と手入れ、爪の保護と手入れ 子どものおしゃれによる皮膚トラブル			
第51-60回	講義	皮膚と皮膚付属器官の疾患		皮膚の異常と病態、湿疹・皮膚炎、蕁麻疹、薬疹			
第61回	試験						
第62-73回	講義	皮膚と皮膚付属器官の疾患		口唇の疾患、温熱・寒冷による皮膚障害 角化異常による皮膚疾患、色素異常による皮膚疾患 血管腫（アカアザ）、脂腺母斑、下肢静脈瘤			
第74回	試験						
第75-87回	講義	皮膚と皮膚付属器官の疾患		分泌異常による皮膚疾患、化膿菌による皮膚疾患			
第88回	試験						
第89-95回	講義	皮膚と皮膚付属器官の疾患		ウイルスによる皮膚疾患、真菌による皮膚疾患、衛生害虫による皮膚疾患、感染症の皮膚疾患の予防、毛と爪の疾患、皮膚の腫瘍			
第96回	試験						
テキスト	(公)日本理容美容教育センター『保健』2025、2026年度発行版						
注意事項	特記事項無						

認定	職業実践専門課程		課程	昼間		開講年度	2026年度
課目名	香粧品化学		法定課目名	必修・香粧品化学		学科	理容科
履修年次	1学年・2学年		単位数	2単位	担当教員	吉村慎太郎	
到達目標	理容・美容技術を行う上で、作用方法を誤れば重大な健康被害を起こすおそれがある化学的な性質を理解するとともに、正しく使用するための正確な知識と適正な技術を身に付ける。理容・美容の技術を安全かつ効果的に行える香粧品の正確な科学的知識と合理的な取り扱い方法を習熟するとともに香粧品による危害を防止するための使用上の注意を理解する。						
課目概要	美容の施術の際に使用する香粧品（化粧品、ヘアケア剤、香水など）を正しく取り扱うために、必要な知識を学ぶ。						
成績評価	1. 学期末試験(年3回各学期毎)の成績を主に、平素の学習態度及び出席状況を考慮して行う。2. 学期末試験の成績は100点法で評価する。3. 各教科目の担当者は、当該年度で習得すべき学習内容の到達目標を予め申し合わせ、評価は当該教科目毎、学年別、学科別に行う。						
授業計画	形式の別	大項目		授業内容			
第1～3回	講義	香粧品総論		香粧品とは、香粧品と造形、香粧品の効果と使用プロセス			
第4～9回	講義	香粧品を使用する際に気を付けるべきこと		香粧品の安定性、経時変化、使用上の取り扱い上の注意			
第10回	試験						
第11～12回	講義	香粧品を使用する際に気を付けるべきこと		香粧品の使用によるトラブル、香粧品定義と法規制、香粧品の安全性と安定性			
第13～23回	講義	香粧品の成り立ち		香粧品の成り立ち、水と親水性溶媒、油性原料			
第24回	試験						
第25～30回	講義	香粧品の成り立ち		界面活性剤、高分子化合物、色材、香料			
第31回	試験						
第32回	講義	香粧品の成り立ち		製品を安定させる配合原料、その他の機能性配合原料、雑貨原料			
第33～41回	講義	スキンケア製品		香粧品の効果と使用プロセス、クレンジング用香粧品 コンディショニング用香粧品、トリートメント用香粧品			
第42回	試験						
第43～49回	講義	メイクアップ製品		メイクアップ製品の種類と剤形、ベースメイクアップの香粧品 ポイントメイクアップ香粧品、アイメイクアップ製品 まつ毛ケア製品、ネイルメイクアップ製品、ネイルケア製品			
第50～52回	講義	ヘアケア製品		ヘアクレンジング用香粧品、ヘアコンディショニング用香粧品			
第53～55回	講義	ヘアメイクアップ製品		ヘアスタイリング料、パーマ剤			
第56回	試験						
第57～62回	講義	ヘアメイクアップ製品		ヘアカラー製品			
第63回	講義	スカルプヘア製品		脱毛の予防と毛の成長促進、スカルプケア製品 スカルプトリートメント製品			
第64回	試験						
テキスト	(公)日本理容美容教育センター『香粧品化学』2025、2026年度発行版						
注意事項	特記事項無						

認定	職業実践専門課程		課程	昼間		開講年度	2026年度
課目名	文化論		法定課目名	必修・文化論		学科	理容科
履修年次	1学年・2学年		単位数	2単位	担当教員	中川勝利 他3名	
到達目標		理容・美容文化の歴史及び沿革、日本及び海外のファッションの変遷、服飾・衣服の原理、種類、意義、エチケット、流行を追う心理や社会に与える影響を理解する。理容・美容業務を全うするための優れた表現力・観察力を養い、理容・美容業の使命であるより優れた人間美の創造、美的感覚を表現のために必要となる知識と教養を修得する。					
課目概要		理容の施術に必要な美的感覚と表現力、またヘア・ファッションの歴史（文化史）を学び、ヘアデザインなどに役立てます。					
成績評価		1. 学期末試験（年3回各学期毎）の成績を主に、平素の学習態度及び出席状況を考慮して行う。2. 学期末試験の成績は100点法で評価する。3. 各教科目の担当者は、当該年度で習得すべき学習内容の到達目標を予め申し合わせ、評価は当該教科目毎、学年別、学科別に行う。					
授業計画		形式の別	大項目		授業内容		
第1回		講義	総論		総論		
第2-6回		講義	日本の理容業・美容業の歴史		理容業・美容業の登場、江戸時代の理容業・美容業 近代の理容業・美容業、現代の理容業・美容業		
第7-9回		講義	ファッション文化史 日本編		縄文・弥生・古墳時代、古代（飛鳥・奈良・平安時代）		
第10回		試験					
第11-23回		講義	ファッション文化史 日本編		中世（平安時代末期・鎌倉・室町・戦国時代） 近代（戦国時代末期・安土桃山時代）		
第24回		試験					
第25-30回		講義	ファッション文化史 日本編		近代（江戸時代）、近代（明治時代）		
第31回		試験					
第32-41回		講義	ファッション文化史 日本編		近代（大正時代）、近代（昭和20年まで） 現代（1945年～1950年代）		
第42回		試験					
第43-44回		講義	ファッション文化史 日本編		現代（1960年代～1970年代）、現代（1980年代～1990年代） 現代（2000年代～2010年代）		
第45-55回		講義	ファッション文化史 西洋編		古代エジプト、古代ギリシャ・ローマ、古代ゲルマン 中世ヨーロッパ、近世（16世紀）、近世（17世紀） 近世（18世紀）、近代（18世紀～19世紀初め）		
第56回		試験					
第57-61回		講義	ファッション文化史 西洋編		近代（19世紀）、現代（1910年代～1920年代）、（1930年代～1940年代前半）、（1940年代後半～1950年代）、（1960年代）、（1970年代）、（1980年代）、（1990年代～2010年）		
第62-63回		講義	礼装の種類		和装の礼装、洋装の礼装		
第64回		試験					
テキスト		（公）日本理容美容教育センター『文化論』2025、2026年度発行版					
注意事項		特記事項無					

認定	職業実践専門課程		課程	昼間		開講年度	2026年度
課目名	理容技術理論		法定課目名	必修・理容技術理論		学科	理容科
履修年次	1学年・2学年	単位数	5単位	担当教員	中村康朗 他4名		
到達目標	理容技術についての知識を衛生的、能率的に実践する態度と習慣とを修得し、工夫と創造の能力を獲得する。理容の業務を安全かつ効果的に行うための理容器具の正確な物理的知識と合理的思考による正しい取扱いの方法と理容の基礎的技術と作業の実際に即した使用を実践できる。優れた理容技術は、経験によって得られるだけでなく、基本的な理論があって可能となることを認識する。						
課目概要	理容に用いられる器具や機械の種類、目的を理解し、正しい取り扱い方法、理容の基礎的な技術理論と知識を学ぶ。						
成績評価	1. 学期末試験(年3回各学期毎)の成績を主に、平素の学習態度及び出席状況を考慮して行う。2. 学期末試験の成績は100点法で評価する。3. 各教科目の担当者は、当該年度で習得すべき学習内容の到達目標を予め申し合わせ、評価は当該教科目毎、学年別、学科別に行う。期末定期試験は授業時間数に含める。						
授業計画		形式の別		授業内容			
第1-2回		講義		理容技術を学ぶにあたって			
第3-4回		講義		理容技術の基礎			
第5-8回		講義		理容用具			
第9-14回		講義		ヘアカッティング			
第15-20回		講義		パーマメントセット			
第21-29回		講義		シェービング			
第30-35回		講義		シャンプーイング&リンシング			
第36-37回		講義		ヘアデザイン			
第38-43回		講義		ヘアカッティング			
第44-49回		講義		ヘアセッティング			
第50-55回		講義		ヘアカラーリング			
第56-63回		講義		シェービング			
第64-69回		講義		理容エステティック			
第70-77回		講義		理容クリニック			
第78-81回		講義		ヘアカッティング			
第82-85回		講義		理容マッサージ			
第86-89回		講義		ヘアトリートメント			
第90-93回		講義		スキャルプトリートメント			
第94-94回		講義		理容技術の基礎			
第95-96回		講義		理容用具			
第97-102回		講義		ヘアカッティング			
第103-104回		講義		ヘアセッティング			
第105-106回		講義		パーマメントセット			
第107-108回		講義		ヘアカラーリング			
第109-112回		講義		シェービング			
第113-116回		講義		ヘアカッティング			
第117-120回		講義		ヘアセッティング			
第121-124回		講義		パーマメントセット			
第125-128回		講義		ヘアカラーリング			
第129-132回		講義		シェービング			
第133-135回		講義		シャンプーイング			
第136-137回		講義		理容マッサージ			
第138-154回		講義		資格試験過去問題解答と解説			
テキスト		(公)日本理容美容教育センター『理容技術理論①②』2025、2026年度発行版					
教員紹介		担当教員は理容師として勤務した経験があり、実務に基づいて授業を展開する					
注意事項		特記事項無					

認定	職業実践専門課程		課程	昼間		開講年度	2026年度
課目名	運営管理		法定課目名	必修・運営管理		学科	理容科
履修年次	2 学年	単位数	1単位	担当教員	日高淳 他1名		
到達目標	経営管理及び労務管理の基本的事項ならびに、理容業における運営管理手法の重要を理解し、理容所の運営に役立つ知識と資質を修得する。理容業における適切な接客態度ならびに消費者対応の基本を学び、実践する能力を身に付ける。						
課目概要	経営戦略及び経営管理ならびに労務管理の基本的知識・理論について学ぶ。また接客法や消費者への対応方法を身につけるとともに、マネージメントの基本を学び、理容業における運営上の管理手法の知識を学ぶ。						
成績評価	1. 学期末試験(年3回各学期毎)の成績を主に、平素の学習態度及び出席状況を考慮して行う。2. 学期末試験の成績は100点法で評価する。3. 各教科目の担当者は、当該年度で習得すべき学習内容の到達目標を予め申し合わせ、評価は当該教科目毎、学年別、学科別に行う。						
授業計画	形式の別	大項目		授業内容			
第1-2回	講義	経営とは・経営者とは		経営とは何か、経営者の責任、経営の目的 経営戦略①、経営戦略②			
第3-4回	講義	理容業・美容業の経営について		業界の概要、理容業・美容業を取り巻く社会の変化 理容業・美容業における競争、競争の未来図 理容業・美容業の顧客			
第5-6回	講義	資金の管理		資金管理の重要性、収支と損益、会計の考え コストを管理する、税金について、税金の申告			
第7-8回	講義	人という資源		人という資源とは、人の能力を高める 人をやる気にさせるために、給与、待遇・福利厚生 労働者の権利			
第9回	講義	従業員としての視点から		社会人としての責任・理容業・美容業の授業員としての責任 社会保険①～公的年金～、社会保険②～医療保険～			
第10回	試験						
第11-13回	講義	従業員としての視点から		社会保険③～労働保険～、キャリアプランの重要性 仕事をするうえで考えるべきこと			
第14-17回	講義	健康・安全な職場環境の実現		健康管理の基礎、理容・美容の仕事と健康 理容業・美容業に特徴的な健康課題 理容・美容の作業環境に関する健康問題			
第18-21回	講義	サービス・デザイン		サービスを考えるうえで重要なkと サービス・デザインの基本、サービス・システム① サービス・システム②、システム詳細、サービスの範囲 新しいサービスをデザインしよう			
第22-23回	講義	サービス・マーケティング		理容業・美容業のマーケティング、マーケティング・リサーチ サービスの改善、コスト			
第24回	試験						
第25-26回	講義	サービス・マーケティング		コミュニケーション、コンビニエンス 情報コミュニケーション技術の活用について			
第27-31回	講義	サービスにおける人の役割		接客についての理解、よい接客のための準備、接客の要点 接客の実践①、接客の実践②、接客の実践③ 接客におけるトラブルと対応、接客で発生が予想される問題 問題を深刻化させないための対策・対処			
第32回	試験						
テキスト	(公)日本理容美容教育センター『運営管理』2025、2026年度発行版						
注意事項	※外部専門機関との連携教育として、日本年金機構年金事務所による「年金セミナー」、東京税理士会立川年金事務所「租税教室」、日本政策金融公庫「創業セミナー」の実施予定を含む。						

認定	職業実践専門課程		課程	昼間		開講年度	2026年度
課目名	理容実習		法定課目名	必修・理容実習		学科	理容科
履修年次	1学年・2学年	単位数	30単位	担当教員	中村康朗 他4名		
到達目標	理容の業務を安全かつ効果的に実施する技術を習得する。基本的操作を確実に身につけるとともに、これらの基本的操作を適宜組み合わせる技術で完成させる技術を修得する。理容所における衛生管理の重要性を認識させ、器具の消毒などの適切な実施方法、ならびに個々の顧客の要望に応じた理容技術を確実に提供できるような総合的な技術の基礎を身につける。						
課目概要	理容器具の取扱に関する操作方法、消毒方法、手入れ方法を学ぶ。また用途に適した理容器具の選定方法を理解し実践する能力を身につける。基礎的技術実習では、理容技術を行う場合の位置、姿勢などの基本動作を学ぶ。頭部及び頭部技術を学ぶ。具体的には、ヘアカッティング（ウィメンズ／メンズ）、ワインディング、シェービング、ヘアカラーリング、ネイルケア、シャンプーなど、一部の専門科目をのぞき、理容理容の技術をトータルで学ぶ。						
成績評価	1. 学期末試験（年3回各学期毎）の成績を主に、平素の学習態度及び出席状況を考慮して行う。2. 学期末試験の成績は100点法で評価する。3. 各教科目の担当者は、当該年度で習得すべき学習内容の到達目標を予め申し合わせ、評価は当該教科目毎、学年別、学科別に行う。 期末定期試験は1回につき3時間（2年次最終回は6時間）実施し、授業時間数に含める。						
授業計画	形式の別		授業内容				
第1-2回	実技		トレーニング				
第3-12回	実技		ヘアカッティング				
第13-16回	実技		シャンプーイング				
第17-20回	実技		シェービング				
第21-30回	実技		ヘアカッティング				
第31-34回	実技		シャンプーイング				
第35-38回	実技		シェービング				
第39-58回	実技		ワインディング				
第59-68回	実技		ヘアカッティング				
第69-72回	実技		シャンプーイング				
第73-76回	実技		シェービング				
第77-96回	実技		ワインディング				
第97-106回	実技		ヘアカッティング				
第107-110回	実技		シャンプーイング				
第111-114回	実技		シェービング				
第115-162回	実技		ワインディング				
第163-166回	実技		シャンプーイング				
第167-170回	実技		シェービング				
第171-175回	実技		ヘアカッティング				
第176-185回	実技		ヘアカッティング				
第186-195回	実技		ヘアセッティング				
第196-205回	実技		ヘアカラーリング				
第206-215回	実技		ネイルケア				
第216-219回	実技		シャンプーイング				
第220-223回	実技		シェービング				
第224-233回	実技		ネイルケア				

第234-243回	実技	ヘアカッティング
第244-253回	実技	ヘアセッティング
第254-263回	実技	ヘアカラーリング
第264-267回	実技	シャンプーイング
第268-277回	実技	ヘアカッティング
第278-287回	実技	ヘアセッティング
第288-297回	実技	ヘアカラーリング
第298-301回	実技	シェービング
第302-311回	実技	ヘアカッティング
第312-319回	実技	ヘアセッティング
第320-327回	実技	ヘアカラーリング
第328-374回	実技	ヘアカッティング
第375-384回	実技	ヘアセッティング
第385-394回	実技	ワインディング
第395-398回	実技	シェービング
第399-406回	実技	ワインディング
第407-412回	実技	アイアニング
第413-422回	実技	ヘアカッティング
第423-426回	実技	シャンプーイング
第427-434回	実技	ワインディング
第435-438回	実技	シェービング
第439-444回	実技	アイアニング
第445-450回	実技	ヘアセッティング
第451-499回	実技	ヘアカッティング
第500-501回	実技	シャンプーイング
第502-503回	実技	シェービング
第504-509回	実技	ワインディング
第510-511回	実技	シャンプーイング
第512-513回	実技	シェービング
第514-520回	実技	ワインディング
第521-540回	実技	ワインディング
第541-550回	実技	ヘアカッティング
第551-554回	実技	シャンプー&シェービング
第555-574回	実技	ワインディング
第575-584回	実技	ヘアカッティング
第585-588回	実技	シャンプー&シェービング
第589-656回	実技	ワインディング
第657-665回	実技	ヘアカッティング
第666-669回	実技	シャンプー&シェービング

第670-679回	実技	ワインディング
第680-709回	実技	ヘアカッティング
第710-713回	実技	シャンプー&シェービング
第714-723回	実技	ワインディング
第724-753回	実技	ヘアカッティング
第754-757回	実技	シャンプー&シェービング
第758-767回	実技	ワインディング
第768-787回	実技	ヘアカッティング
第788-791回	実技	シャンプー&シェービング
第792-923回	実技	資格試験課題
第924-925回	実技	卒業制作（発表会ヘアメイク）
テキスト	(公)日本理容美容教育センター『理容実習①②』2025, 2026年度発行版	
	学校法人国際文化学園発行『HAIR CUTTING BASIS [改訂版]』2013年発行	
教員紹介	担当教員は理容師として勤務した経験があり、実務に基づいて授業を展開する	
注意事項	実習に使用する準備物必須	

認定	職業実践専門課程		課程	昼間		開講年度	2026年度
課目名	コミュニケーション		法定課目名	選択課目・一般教養		学科	理容科
履修年次	1学年・2学年		単位数	2単位	担当教員	菅野優 他2名	
到達目標		理容業に必要なとなる実践的な能力を高め、社会生活における基本的規範やコミュニケーション技術を修得します。社会人としての心構えを修得し、専門技術者として自覚し、芸術、文化など幅広い教養を身につける。グローバル社会における世界的に活躍できるコミュニケーション能力を涵養するとともに、日本文化を世界に発信できる知識と教養を修得し、理容業における実践的な接客能力に留まらず、世界に通用するプロトコルに関する知識を理解し、それを実践できる能力、態度を修得する。					
課目概要		日本古来の有識故実に基づく礼法や実践的な接客に関するマナーと実践的な英会話も学ぶ。また美しい姿勢を身につけるとともに、人に良い印象を与えられるように身体で感情を表現することも実践します。					
授業計画		形式の別	各回の授業内容				
第1-2回		演習	英会話（自己紹介）				
第3-4回		演習	英会話（お出迎え①）				
第5-6回		演習	英会話（お出迎え②）				
第7-8回		演習	英会話（時間の伝え方①）				
第9-10回		演習	英会話（時間の伝え方②）				
第11-12回		試験	英会話（サービスメニューの説明①カット）				
第13-14回		演習	英会話（サービスメニューの説明②シャンプー）				
第15-16回		演習	英会話（サービスメニューの説明③ヘアカラー）				
第17-18回		演習	英会話（シャンプー台へのご案内①）				
第19-20回		演習	英会話（シャンプー台へのご案内②）				
第21-22回		演習	英会話（シャンプー台へのご案内③）				
第23-24回		演習	英会話（シュミレーション①）				
第25-28回		演習	英会話（施術のシュミレーション①）				
第29-30回		演習	英会話（施術のシュミレーション②）				
第31-32回		試験	英会話（模擬接客のスピーキングテスト）				
第33-34回		講義	礼法（席次）				
第35-36回		講義	礼法（テーブルマナー）				
第37-38回		演習	礼法（テーブルマナー）				
第39-40回		講義	礼法（紹介）				
第41-42回		演習	礼法（名刺交換）				
第43-44回		演習	マナー（好印象を与える自己紹介）				
第45-46回		演習	マナー（人の呼び方、丁寧な言葉、敬語の種類）				
第47-48回		演習	マナー（敬語のマナー）				
第49-50回		演習	マナー（敬語のロールプレイング）				
第51-52回		演習	マナー（接客のロールプレイング）				
第53-54回		演習	マナー（電話応対①）				
第55-56回		演習	マナー（電話応対②）				
第57-58回		講義	パーソナルカラーを用いたカウンセリング①				
第59-60回		講義	パーソナルカラーを用いたカウンセリング②				
第61-62回		演習	パーソナルカラーを用いたカウンセリング（ロールプレイング①）				
第63-64回		演習	パーソナルカラーを用いたカウンセリング（ロールプレイング②）				
テキスト		仙石宗久著『NIVEAU ELEMENTAIRE DETIQUETT ET DE PROTOCOLE』日本エチケットプロトコール協会発行					
		『IS THAT OK FOR YOU?』（2014）㈱セイガンスピーク アルファベントィ事業部発行					
教員紹介		担当教員は理容師・英会話講師として勤務した経験があり、実務に基づいて授業を展開する					
注意事項							

認定	職業実践専門課程		課程	昼間		開講年度	2026年度
課目名	芸術		法定課目名	選択課目・一般教養		学科	理容科
履修年次	1学年・2学年	単位数	2単位	担当教員	青野正 他1名		
到達目標		理容業に必要なとなる実践的な能力を高め、社会生活における基本的規範や芸術性を修得する。社会人としての心構えを修得し、専門技術者として自覚し、芸術、文化など幅広い教養を身につける。必修科目にいて学習した造形、色彩、服飾に関する基礎的知識を基に、顧客の個性、服装、その他の環境に応じてヘアスタイルを設計し、流行を作り出す能力を身につける。					
課目概要		理容の技術者が有すべきファッションやトレンドに関する知識や教養ならびにセンス、芸術性やデザイン性を関連する芸術（アート）からデッサンや造形、色彩（カラー）を学ぶ。また理容業における写真作品の技術を学ぶために、より実践的な作品撮りの写真技術（フォトシューティング）を実践する。					
授業計画		形式の別	各回の授業内容				
第1-2回		実技	デッサン（線による表現の基礎）				
第3-4回		実技	デッサン（構図、空間の基礎）				
第5-6回		実技	デッサン（人の顔の造形の基礎、人頭の表現基礎）				
第7-8回		実技	デッサン（髪型の表現）				
第9-10回		実技	デッサン（ヘアデザイン、ヘアスタイルの表現）				
第11-12回		実技	美学（人物のデッサンの基礎）				
第13-14回		実技	美学（ファッションのコラージュ）				
第15-16回		実技	美学（紙粘土を用いた人の顔の造形-アウトライン）				
第17-18回		実技	美学（紙粘土を用いた人の顔の造形-作品作り）				
第19-20回		実技	美学（ウィッグを用いたコラージュの制作）				
第21-22回		実技	美学（ウィッグを用いたコラージュの講評）				
第23-24回		実技	色彩学（基礎：三属性、色相、明度、彩度）				
第25-26回		実技	色彩学（色彩の心理的効果）				
第27-28回		実技	色彩学（色と商品）				
第29-30回		実技	色彩学（メイクカラー）				
第31-32回		実技	色彩学（色と広告・商品カラーの印象）				
第33-34回		講義	色彩学（パーソナルカラーにおける春夏））				
第35-36回		講義・実技	色彩学（パーソナルカラーにおける秋冬）				
第37-38回		講義・講義	色彩学（パーソナルカラーにおけるイエロー・ブルー）				
第39-40回		講義・実技	色彩学（トレンドカラーの分析法）				
第41-42回		講義・実技	色彩学（パーソナルカラー診断の実践）				
第43-44回		講義・実技	色彩学（パーソナルカラー診断の実践）				
第45-46回		講義・実技	フォトシューティング（カメラの基本）				
第47-48回		実技	フォトシューティング（写真も用いたコラージュ作製）				
第49-50回		講義	フォトシューティング（グループでの作品撮り ）				
第51-52回		実技	フォトシューティング（グループでの作品撮り）				
第53-54回		実技	フォトシューティング（作品の総評と講評）				
第55-56回		講義・実技	装飾品デザイン（髪飾りの種類と特徴）				
第57-58回		実技	装飾品デザイン（髪飾りのデザイン）				
第59-60回		実技	装飾品デザイン（髪飾りのデザイン）				
第61-62回		実技	装飾品デザイン（髪飾りの制作）				
第63-64回		実技	装飾品デザイン（髪飾りの制作）				
テキスト							
教員紹介		担当教員は芸術家として活動しており、実務に基づいて授業を展開する					
注意事項		教材としてカラーカード（新配色カード）、演習台紙、色鉛筆、はさみ、のりを用いる					

認定	職業実践専門課程		課程	昼間		開講年度	2026年度
課目名	ファッションビジネス		法定課目名	選択課目・一般教養		学科	理容科
履修年次	2 学年	単位数	2単位	担当教員	本田浩一		
到達目標	理容業に必要な実践的な能力を高め、社会生活における基本的規範やコミュニケーション技術を修得します。社会人としての心構えを修得し、専門技術者として自覚し、芸術、文化など幅広い教養を身につける。ファッションとトレンドとビジネスに関する知識と教養を幅広く習得するとともに、理容技術者として必要となる流行を分析し、把握したうえで、自ら情報を発信できる能力を身につける。						
課目概要	ビューティービジネスの実践的なメイクアップ、トレンド、ファッションについて幅広く学ぶ。プロとして活躍できるヘアメイクアップをグループで実践的に作品を創り上げます。またファッションの流行、歴史、トレンドの理論と知識を学び、グループによるファッションショーで、ファッションを通じたセルフマネジメントを学習します。						
授業計画	形式の別	各回の授業内容					
第1-2回	講義	メイクアップビジネス（概論）					
第3-4回	演習	メイクアップビジネス（相反する人物像のコンセプト立案）					
第5-6回	演習	メイクアップビジネス（相反する人物像の作品作り）					
第7-8回	講義・演習	メイクアップビジネス（プレゼンテーション）					
第9-10回	演習	メイクアップビジネス（雑誌の表紙のコンセプト立案）					
第11-12回	講義・演習	メイクアップビジネス（雑誌の表紙の作品作り）					
第13-14回	演習	メイクアップビジネス（CMコンセプトの立案）					
第15-16回	演習	メイクアップビジネス（CMコンセプトの撮影①）					
第17-18回	演習	メイクアップビジネス（CMコンセプトの撮影②）					
第19-20回	講評	メイクアップビジネス（グループでのプレゼンテーション）					
第21-22回	講義	メイクアップビジネス（グローバル社会と美容業界の今後）					
第23-24回	講義	ファッションブランニング（スタイリングの基礎知識）					
第25-26回	講義	ファッションブランニング（ユニバーサルスタイル、7つのイメコン）					
第27-28回	演習	ファッションブランニング（ユニバーサルスタイル、7つのイメコン）					
第29-30回	演習	ファッションブランニング（パーソナリティプロフィール）					
第31-32回	演習	ファッションブランニング（パーソナリティプロフィール）					
第33-34回	演習	ファッションブランニング（ヘアアレンジイラストフォーマット）					
第35-36回	講義	ファッションブランニング（ヘアアレンジイラストフォーマット）					
第37-38回	演習	ファッションブランニング（印象分析の事例）					
第39-40回	講義	ファッションブランニング（印象分析の事例）					
第41-42回	講義	ファッションブランニング（体形分析、顔型）					
第43-44回	演習	ファッションブランニング（体形分析、体形）					
第45-46回	講義	トレンド学（8つのトレンドと分析法）					
第47-48回	講義・演習	トレンド学（アクティブ、エレガンス）					
第49-50回	講義・演習	トレンド学（エスニック、モダン）					
第51-52回	講義・演習	トレンド学（カントリー、ロマンティック）					
第53-54回	講義・演習	トレンド学（マニッシュ、ソフィスケート）					
第55-56回	講義・演習	トレンド学（コラージュの制作①）					
第57-58回	講義・演習	トレンド学（コラージュの制作②）					
第59-60回	講義・演習	トレンド学（コラージュ発表と講評）					
第61-62回	講義・演習	トレンド学（8つのマトリックス分析）					
第63-64回	講義	トレンド学（ポジショニング-タレント、雑誌、ファッション分析）					
テキスト							
教員紹介	担当教員は理容師として勤務した経験があり、実務に基づいて授業を展開する						
注意事項	グループワークでの実践的な作品作りと発表を行う						

認定	職業実践専門課程		課程	昼間		開講年度	2026年度
課目名	ヘルシーマネジメント		法定課目名	選択課目・一般教養		学科	理容科
履修年次	1学年・2学年	単位数	2単位	担当教員	室谷真由美 他3名		
到達目標	理容業に必要なとなる実践的な能力を高め、社会生活における基本的規範やコミュニケーション技術を修得する。社会人としての心構えを修得し、専門技術者として自覚し、芸術、文化など幅広い教養を身につける。						
課目概要	美しく健康的なライフスタイルのマネジメントを、「化粧」と「食」と「ヘッドスパ・エステティック」に関する知識と理論に加え、実践を通じてを学ぶ。						
授業計画	形式の別		各回の授業内容				
第1-2回	講義		化粧心理学（紫外線と肌）				
第3-4回	講義		化粧心理学（ニキビ）				
第5-6回	講義		化粧心理学（太陽光線）				
第7-8回	講義		化粧心理学（老化の三大要因）				
第9-10回	講義		化粧心理学（乾燥とスキンケア）				
第11-12回	演習		化粧心理学（フェイシャルケア技術）				
第13-14回	演習		化粧心理学（フェイシャル及びデコルテマッサージ）				
第15-16回	演習		化粧心理学（フェイシャルパック）				
第17-18回	講義		ヘッドスパ（基礎知識、ツボの知識）				
第19-20回	講義		ヘッドスパ（ヘッドスパ製品と使用方法）				
第21-24回	演習		ヘッドスパ（ヘッドスパマッサージ）				
第25-26回	演習		ヘッドスパ（フェイスリフトマッサージ）				
第27-28回	演習		ヘッドスパ（アイリフトマッサージ）				
第29-30回	試験		栄養学（ビューティーフードについて）				
第31-32回	講義		栄養学（ビューティーフードの食材の特徴）				
第33-34回	講義		栄養学（ビューティーフードの理論）				
第35-36回	講義		栄養学（現代日本の食生活の特徴と課題）				
第37-38回	講義		栄養学（日本食の特徴、日本食の良さをとり戻すために）				
第39-40回	講義		栄養学（ビューティーフードの主な食材の知識）				
第41-42回	講義		栄養学（玄米、農作物、豆製品、海藻等）				
第43-44回	講義		栄養学（マクロビオテック陰陽）				
第45-46回	演習		栄養学（陰陽五行 体質診断）				
第47-48回	講義		栄養学（ビューティーフードの献立）				
第49-50回	演習		栄養学（オーガニック農産物、ビューティーフードレピシ）				
第51-52回	講義		エステティック（エステ概論、カウンセリング理論）				
第53-54回	演習		エステティック（ウォームワックス脱毛理論）				
第55-56回	講義・演習		エステティック（マッサージ）				
第57-58回	演習		エステティック（肌質理論、ブラシ理論、吸引理論、）				
第59-60回	講義・演習		エステティック（クレンジング）				
第61-62回	講義・演習		エステティック（マッサージ）				
第63-64回	演習		エステティック総合実習				
テキスト	栄養学『Beauty-food Association基礎講座』（2012）Beauty-food Association association発行						
教員紹介	担当教員はビューティーフード研究科として活動しているものや、エステティシャン・美容師として勤務した経験をもつものであり、実務に基づいて授業を展開する						
注意事項	白衣着用、実習に使用する準備物必須						

認定	職業実践専門課程		課程	昼間		開講年度	2026年度
課目名	総合技術		法定課目名	選択課目・専門教育		学科	理容科
履修年次	2 学年		単位数	2単位	担当教員	中川勝利	
到達目標		必修科目において習得した基礎的な専門知識や技術を基に、さらに高度な専門知識や技術を身につける。物理的・化学的基礎に裏付けられた高度な理容技術を確実に実施する能力を身につけるとともに、これらを応用して新たな技術を開発するための総合的能力を習得する。					
課目概要		理容技術に関する基礎的な知識と技術に基づき、より高度で実践的な総合的な技術を実践し、その総合的技術を習得します。					
授業計画		形式の別	各回の授業内容				
第1-2回		講義	理容師としての基本（立ち居振る舞い等）				
第3-4回		講義	理容師としての基本（発声練習・タオル操作）				
第5-6回		実技	基本トレーニング（手指・腕関節・体幹）				
第7-8回		実技	基本トレーニング（クロス掛け）				
第9-12回		実技	理容トレーニング（ご案内とカウンセリング）				
第13-18回		実技	シャンプー（相モデル）				
第19-24回		実技	シェービング（相モデル）				
第25-30回		実技	シャンプー・シェービング（相モデル）				
第31-32回		講義	男性の身嗜み				
第33-34回		講義	眉の整え方				
第35-36回		実技	額・上眼瞼・下眼瞼・鼻・耳のシェービング（相モデル）				
第37-38回		講義	ヘアセットの応用				
第39-40回		実技	ワインディング（レンガ巻き）				
第41-42回		実技	ドライヤーセット（クラシカルバック）				
第43-44回		講義	総合調髪（ロールプレイング）				
第45-54回		実技	総合調髪（ロールプレイング）				
第55-56回		実技	ヘアカッティング（ブロース）				
第57-62回		実技	ヘアカッティング（ブロース）				
第63-64回		実技	ヘアカッティング（ブロース）				
テキスト							
教員紹介		担当教員は理容師として勤務した経験があり、実務に基づいて授業を展開する					
注意事項		白衣着用、実習に使用する準備物必須					

認定	職業実践専門課程		課程	昼間		開講年度	2026年度
課目名	アップ		法定課目名	選択課目・専門教育		学科	理容科
履修年次	1学年・2学年	単位数	2単位	担当教員	中村康朗 他2名		
到達目標		必修科目において習得したアップスタイルに関する基礎的な専門知識や技術を基に、さらに高度なアップスタイルに関する専門知識や技術を身につける。					
課目概要		アップスタイルに関する基礎的な知識と技術に基づき、より高度で実践的な技術を実践し、その技術を習得します。					
授業計画		形式の別	各回の授業内容				
第1-2回		実技	道具説明、仕込み（スタイリング）、基本（一束で結ぶ）				
第3-4回		実技	基礎（ローブ編み、三つ編み、編みこみ、四つ編み）				
第5-6回		実技	一束、ネープを上げる（すき毛あり、セパレート）				
第7-8回		実技	一束、ネープを上げる（抱き合わせ、重ね夜会）				
第9-10回		講義	夜会①ボトムデザイン、本夜会スタイル（すき毛の説明）				
第11-12回		実技	夜会②ボトムデザイン、ネープ（束の復習、すき毛あり、セパレート）				
第13-14回		実技	夜会③ボトムデザイン、すき毛あり、セパレート、抱き合わせ、重ね夜会）				
第15-16回		実技	夜会④ボトムデザイン、すき毛あり、セパレート、抱き合わせ、重ね夜会）				
第17-18回		実技	夜会⑤ボトムデザイン、本夜会（すき毛の説明、スタイル作成）				
第19-20回		実技	夜会⑥ボトムデザイン、本夜会（すき毛の説明、スタイル作成）				
第21-22回		講義	サイドのボトムデザイン①（一束、セパレート、ひきつめ、すき毛、逆毛あり）				
第23-24回		実技	サイドのボトムデザイン②（一束、セパレート、ひきつめ、すき毛、逆毛あり）				
第25-26回		実技	サイドのボトムデザイン③（一束、セパレート、ひきつめ、すき毛、逆毛あり）				
第27-28回		講義	トップのボリューム①（一束、セパレート、ひきつめ、すき毛、逆毛あり）				
第29-30回		実技	トップのボリューム②（一束、セパレート、ひきつめ、すき毛、逆毛あり）				
第31-32回		実技	トップのボリューム③（一束、セパレート、ひきつめ、すき毛、逆毛あり）				
第33-34回		講義	ボトムデザイン、シニヨン①（一束、セパレート、ネープ、ひきつめ）				
第35-36回		実技	ボトムデザイン、シニヨン②（一束、セパレート、ネープ、ひきつめ）				
第37-38回		実技	ボトムデザイン、シニヨン③（一束、セパレート、ネープ、ひきつめ）				
第39-40回		講義・実技	ホットカラーの使用法①（ネープ、抱き合わせ、サイド、ひきつめ）				
第41-42回		実技	ホットカラーの使用法②（一束の毛先にホットカラーを巻く）				
第43-44回		実技	カール①スタイル（ワンポイント・トップカールとルーズカール&スパイシーカール）				
第45-46回		実技	カール②（ツーポイントカール ワンポイント・右ネープサイド・フオワード）				
第47-48回		実技	カール③（ネープカール・スリーポイントカール・リーゼント風）				
第49-50回		実技	デザイン、編みこみ①、スタイル（ローブ編み、表三つ編み、裏三つ編み、くずし）				
第51-52回		実技	デザイン、編みこみ②、スタイル（ダウンスタイルベーシック）				
第53-54回		実技	デザイン、編みこみ③、スタイル（ダウンスタイルデザイン）				
第55-56回		実技	デザイン、新日本髪（部位の名称、作り方）				
第57-58回		実技	デザイン、新日本髪（ネープ、フロント、サイドベーシック）				
第59-60回		実技	デザイン、新日本髪（ネープ、フロント、サイド）				
第61-62回		実技	デザイン、新日本髪（仕上がり、技術チェック、飾りの説明）				
第63-64回		実技	デザイン、新日本髪（仕上がり、飾りの説明）				
テキスト		新井唯夫『新アップスタイルの基本』（2015）髪書房					
教員紹介		担当教員は理容師・美容師として勤務した経験があり、実務に基づいて授業を展開する					
注意事項		白衣着用、実習に使用する準備物必須					

認定	職業実践専門課程		課程	昼間		開講年度	2026年度
課目名	カット		法定・課目名	選択課目・専門教育		学科	理容科
履修年次	1学年・2学年		単位数	2単位	担当教員	菅野優	
到達目標		必修科目において習得したカットに関する基礎的な専門知識や技術を基に、さらに高度なヘアデザインに関する専門知識や技術を身につける。					
課目概要		カットに関する基礎的な知識と技術に基づき、より高度で実践的な技術を実践し、その技術を習得します。					
授業計画		形式の別	各回の授業内容				
第1～2回		講義	カット理論（ウィッグの取扱い、シザーズ開閉、姿勢、ブロッキング、スライス、毛流れ）				
第3～4回		実技	基礎的技術（ウィッグを用いたワンレングスカットのバックのみ）				
第5～6回		実技	基礎的カット（ウィッグを用いたレイヤーカットのオンベース、オフベースの引き出し）				
第7～8回		実技	基礎的カット、水平、水平・水平スライス縦、（ウィッグを用いたグラデーションカット）				
第9～10回		実技	ウィッグを用いたボックスボブ				
第11～12回		実技	ウィッグを用いたレザーカット理論				
第13～14回		理論・実技	ウィッグを用いた刈り上げを用いたスタイル				
第15～16回		実技	ウィッグを用いたロングレイヤー				
第17～18回		実技	ウィッグを用いたスクエアオンレイヤー				
第19～20回		実技	ウィッグを用いたワンレングス水平・前上がり				
第21～22回		実技	ウィッグを用いたサイドグラデーション				
第23～24回		実技	ウィッグを用いたグラデーションボブ				
第25～26回		実技	ウィッグを用いたラウンドグラデーション				
第27～50回		実技	サロンワークカット、ウィッグを用いたヘアサロンスタイルカット技法				
第51～52回		実技	ウィッグを用いたウィメンズのショートスタイル（構造図とプロセス）				
第53～54回		実技	ウィッグを用いたウィメンズのショートスタイル（ハネ感、束感、空気感の演出）				
第55～56回		実技	ウィッグを用いたウィメンズのミディアムボブ（構造図とプロセス）				
第57～58回		実技	ウィッグを用いたウィメンズのミディアムボブ（グラデーションの設定）				
第59～62回		実技	ウィッグを用いたスタイルの作製①（グループによるクリエイティブワーク）				
第63～64回		講義・実技	ウィッグを用いたスタイルの作製②（グループによるプレゼンテーション）				
テキスト		学校法人国際文化学園発行『HAIR CUTTING BASIS [改訂版]』2013年発行					
教員紹介		担当教員は理容師として勤務した経験があり、実務に基づいて授業を展開する					
注意事項		白衣着用、実習に使用する準備物必須					

認定	職業実践専門課程		課程	昼間		開講年度	2026年度
課目名	メイクアップデザイン		法定・課目名	選択課目・専門教育		学科	理容科
履修年次	1学年・2学年		単位数	2単位	担当教員	青木真佑子 他2名	
到達目標		必修科目において習得したメイクアップに関する基礎的な専門知識や技術を基に、さらに高度なメイクアップに関する専門知識や技術を身につける。					
課目概要		メイクアップに関する基礎的な知識と技術に基づき、より高度で実践的な技術を実践し、その技術を習得します。					
授業計画		形式の別		各回の授業内容			
第1-2回		講義・実技		メイクアップの理論、アイメイク（セルフメイクでアイライン、マスカラまで）			
第3-4回		実技		ウィッグを用いたスキンケア、ベースメイクアップ、リップ			
第5-6回		実技		ペーパーを用いたアイブロウ、ブラッシュオンメイク（有彩色ヘアメイク）			
第7-8回		実技		ウィッグを用いた基礎的なメイクアップ技術（テーブルセッティング、クレンジング）			
第9-10回		実技		ウィッグを用いた基礎的なメイクアップ技術（トーニング、プロテクティング）			
第11-12回		実技		セルフメイクによるベースメイク、ハイライトローライトカバーホワイト			
第13-14回		実技		相モデルによるスキンケア-ベースメイク			
第15-16回		実技		相モデルによるベースメイク-アイメイク			
第17-18回		実技		相モデルによるアイブロウ、眉のバリエーション、眉カット			
第19-20回		実技		相モデルによるリップ、ブラッシュオンメイク			
第21-22回		実技		相モデルによるフルメイク			
第23-24回		実技		相モデルによる２Ｄメイク			
第25-26回		実技		相モデルによるアイメイクのバリエーション・リキッドアイライナー（ソフト＆シャープ）			
第27-28回		実技		相モデルによる立体研究（面取り）45度、光と陰のメイクアップ			
第29-30回		実技		相モデルによる撮影			
第31-32回		実技		相モデルによるフルメイク			
第33-34回		講義・実技		メイク検定資格試験対策			
第35-38回		実技		ヘアメイク、フルメイクの復習、道具の基本と知識（使い方）			
第39-40回		実技		ヘアメイク、ヘアメイクのベースの立体感作り			
第41-42回		実技		ヘアメイク、ステージメイク（ステージで映えるポイントメイク）			
第43-44回		実技		ヘアメイク、イメージの創造とフルメイク			
第45-46回		実技		ヘアメイク、老人メイクの造形			
第47-48回		実技		ヘアメイク、ウィッグを用いたアイロンテクニック			
第49-50回		実技		ヘアメイク、ウィッグを用いたウェーブスタイル			
第51-52回		実技		ヘアメイク、年代別メイクの展示と相モデル			
第53-54回		実技		ヘアメイク、年代別メイクの違い			
第55-56回		実技		ヘアメイク、年代別メイクの作品撮影			
第57-58回		実技		ヘアメイク、２Ｄメイクのベーシック			
第59-60回		実技		ヘアメイク、２Ｄメイクのデザイン			
第61-62回		実技		ヘアメイク、ファッションショーのヘアメイク			
第63-64回		実技		ヘアメイク、ファッションショーの撮影			
テキスト							
教員紹介		担当教員は理容師・美容師として勤務した経験があり、実務に基づいて授業を展開する					
注意事項		白衣着用、実習に使用する準備物必須					

認定	職業実践専門課程		課程	昼間	開講年度	2026年度
課目名	カラーリング		法定課目名	選択課目・専門教育	学科	理容科
履修年次	1学年・2学年	単位数	2単位	担当教員	菅野優 他1名	
到達目標		必修科目において習得したヘアカラーに関する基礎的な専門知識や技術を基に、さらに高度なヘアカラーに関する専門知識や技術を身につける。				
課目概要		カラーリングに関する基礎的な知識と技術に基づき、より高度で実践的な技術を実践し、その技術を習得します。				
授業計画		形式の別	各回の授業内容			
第1-2回		講義・実技	ヘアカラーの理論（1剤・2剤、酸化染毛剤のメカニズム）と基礎知識（毛束実習）			
第3-4回		実技	ウィッグを用いた塗布、基礎的技術①塗布作業の基本、正しい姿勢とフォーム、放置時間			
第5-6回		実技	ウィッグを用いた塗布技術②サイドセクション、塗布量（発色）の確認			
第7-8回		実技	セიმレイヤースタイルウィッグを用いた塗布技術③ネープセクション、ラッピング			
第9-10回		実技	セიმレイヤースタイルウィッグを用いた塗布技術④ショートヘアー、ラッピング			
第11-12回		実技	セიმレイヤースタイルウィッグを用いた塗布技術⑤コームアクション、スライス			
第13-14回		講義	ヘアカラーの理論（基礎的知識と理論、小テストも含む）			
第15-16回		実技	ワンレングス前上がりウィッグを用いたホイルワーク①（塗布技術の基本）			
第17-18回		実技	ワンレングス前上がりウィッグを用いたホイルワーク②（塗布技術の復習）			
第19-20回		実技	トレーニングクリームを用いた相モデルによる人頭実習①			
第21-22回		実技	トレーニングクリームを用いた相モデルによる人頭実習②			
第23-24回		講義・実技	JHCAヘアカラリスト検定対策①（ヘアカラー剤の分類、役割、塗布の仕方、毛髪と頭皮）			
第25-26回		講義・実技	JHCAヘアカラリスト検定対策②（ウィッグを用いたバージン毛のワンメイクの実践）			
第27-28回		講義・実技	JHCAヘアカラリスト検定対策③（ウィッグを用いた染まりやすい部位・染まりにくい部位）			
第29-30回		講義・実技	JHCAヘアカラリスト検定対策④（ウィッグを用いたマニキュア塗布の実践）			
第31-34回		講義・実技	JHCAヘアカラリスト検定対策⑤（ウィッグを用いたファッションカラーのリタッチ）			
第35-36回		講義・実技	JHCAヘアカラリスト検定対策⑥（ウィッグを用いたファッションカラーのリタッチ）			
第37-38回		模擬試験	JHCAヘアカラリスト検定対策⑦（ウィッグを用いたワンメイク塗布の計測15分＋10分）			
第39-40回		実技	毛束を用いたトーンアップ、染毛理論・薬剤知識			
第41-42回		実技	モデルによるトーンアップ実習			
第43-44回		実技	毛束を用いたトーンダウン、トーンダウンの理論・薬剤コントロール			
第45-46回		実技	モデルによるトーンダウン中心のワンメイク実習			
第47-52回		実技	モデルによるワンメイクの復習（全頭トーンアップ/トーンダウン）、薬剤プロセス			
第53-58回		実技	ウィッグを用いたホイルワーク（ブリーチコントロール、スライシング、ウェーピング）			
第59-64回		実技	モデルによるホイルワーク人頭実習（オンカラー、ダブルカラーの応用）			
テキスト	NPO法人日本ヘアカラー協会「新ヘアカラー入門」（2016）新美容出版株式会社					
教員紹介	担当教員は理容師として勤務した経験があり、実務に基づいて授業を展開する					
注意事項	JHCAヘアカラリスト検定＜シングルスター認定校カリキュラム＞を含む。					

認定	職業実践専門課程		課程	昼間	開講年度	2026年度
課目名	ネイルデザイン		法定課目名	選択課目・専門教育	学科	理容科
履修年次	2 学年	単位数	2単位	担当教員	青木真佑子 他1名	
到達目標	必修科目において習得したネイルに関する基礎的な専門知識やネイル技術を基に、さらに高度なネイルに関する専門知識や技術を身につける。高度なネイル技術を確実に実施する能力を身につけるとともに、これらを活用して新たなネイル技術を開発するための総合的能力を習得する。					
課目概要	ネイルに関する基礎的な知識と技術に基づき、より高度で実践的な技術を実践し、その技術を習得する。					
授業計画	形式の別		各回の授業内容			
第1-2回	講義		ネイルの理論と技術（総論）			
第3-4回	実技		ネイルのテーブルセッティング			
第5-6回	実技		ネイルチップにネイルアート			
第7-8回	実技		復習とネイルの消毒法（擦式清拭消毒）			
第9-10回	実技		復習とウェットステリライザーの作り方			
第11-12回	実技		自爪によるガーゼニッパーの使い方			
第13-14回	実技		ネイルケア相モデル（ファイリング）			
第15-16回	実技		ネイルケア相モデル（プッシュアップ、プッシュバック）			
第17-18回	実技		ネイルケア相モデル（ガーゼニッパー処理）			
第19-20回	実技		ネイルケア相モデル（片手比較）			
第21-22回	実技		ネイルケアトレーニングハンド（トータルケア80分）			
第23-24回	実技		ネイルケアトレーニングハンド（トータルケア70分）			
第25-26回	実技		ネイルケア相モデル（ケア、カラー、アートを40分）			
第27-28回	実技		ポリッシュを用いたモデル（ケアの計測）			
第29-30回	実技		ポリッシュを用いたモデル（カラーの計測）			
第31-32回	実技		ポリッシュを用いたモデル（アートの計測）			
第33-34回	実技		ポリッシュを用いたモデル（ケア、カラー、アートの70分計測）			
第35-36回	講義		JNEC3級検定試験の概要説明			
第37-38回	実技		ジェルネイル（トレーニングハンドにクリアを用いたオーバーレイ）			
第39-40回	実技		ジェルネイル（トレーニングハンドを用いた赤ジェル）			
第41-42回	実技		ジェルネイル（トレーニングハンドを用いたアート）			
第43-44回	実技		JNAジェルネイル検定初級（相モデルでのプレパレーションの計測）			
第45-46回	実技		JNAジェルネイル検定初級（相モデルのカラーの計測）			
第47-48回	実技		JNAジェルネイル検定初級（相モデルのアートの計測）			
第49-50回	実技		JNAジェルネイル検定初級（相モデルでのトータルの計測）			
第51-52回	実技		ネイルアート（ウォーターマープル、絵の具でのたらしこみ）			
第53-54回	実技		ネイルアート、ジェルアート①（タイダイ、ベっ甲、ラグーン、大理石）			
第55-56回	実技		ネイルアート、ジェルアート②（チェック、アーガイル、パーツ風、ミラー）			
第57-60回	実技		ネイルアート、エアブラシ①（ステンシルを用いた技術）			
第61-62回	実技		ネイルアート、エアブラシ②（ステンシルを用いたグラデーション）			
第63-64回	実技		ネイルアート、エアブラシ③（ステンシルを用いたムラの無いグラデーション）			
テキスト	『JNAテクニカルシステムベーシック』（2014）NP0法人日本ネイリスト協会（JNA）発行					
教員紹介	担当教員はネイリストとして勤務した経験があり、実務に基づいて授業を展開する					
注意事項	ネイルアートの実習ではエアブラシを使用。JNEC日本ネイリスト技能検定試験3級、JNAジェルネイル技能検定試験初級の各種認定資格試験を含む。					